

# 我が国の草原の現状に係る アンケート調査結果

草原は人が手をかけつづけることで維持されています。草原を維持する目的や活用方法は地域によって異なることから、草原の抱える課題についても各地で違いが生じていますが、各地の抱えている課題が共有できていないという問題があります。

今回、草原サミット・シンポジウムin阿蘇を開催するにあたり、全国の草原がどのように保全・活用されているか、また、どのような課題を抱えているか把握するために、阿蘇市町村会・全国草原再生ネットワークが共同でアンケートを実施しました。

## ■アンケートの目的

今回のアンケートの目的の1つは、草原が日本全国でどのように活用され、どういった価値を持っているかを理解することとしました。

また、草原をどうやって守るかといった問題も大きな課題です。草原を後生まで維持するために、何が課題になっているのか、より良い草原管理を目指して、全国の草原が抱えている課題を把握したいと思います。

アンケート内容は草原の基礎情報のほか、右の表の内容に関して実施しました。

## ■アンケートの集計

草原再生ネットワークで把握している全国の草原を有する自治体にアンケートを送付し、各地の草原について151件の回答をいただきました。

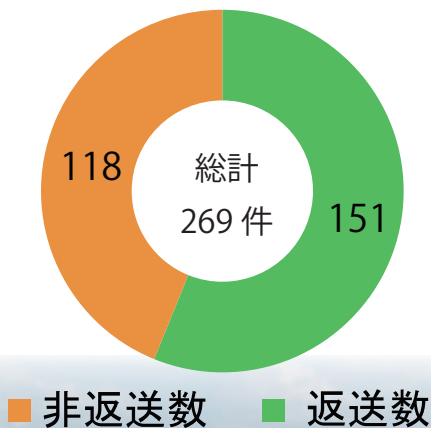
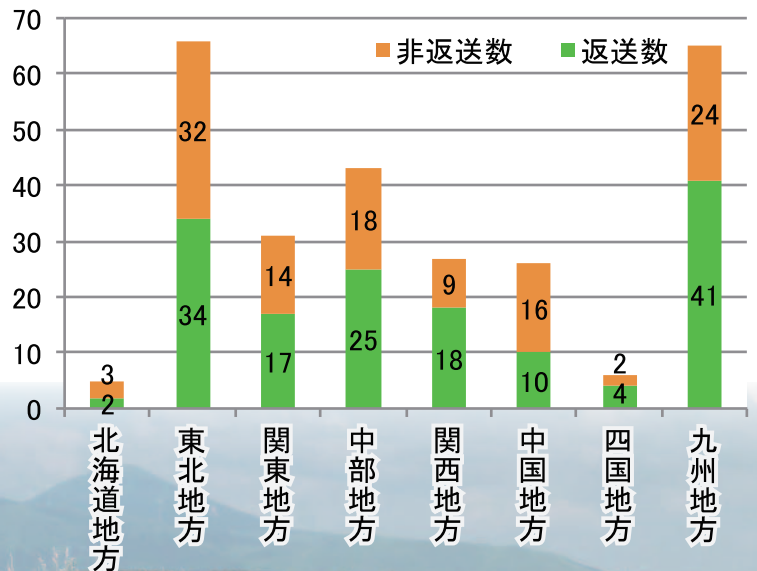


表. アンケートの内容

■基礎情報	
問1	基礎情報(名称、面積、土地所有者、管理者、管理方法、主な植生)
■草原の維持管理・保全について	
問2	草原の維持管理目的
問3	ボランティアの参加の有無
問4	ボランティアの活用内容
問5	草原の維持管理・保全が行政の負担になっているか
問6-1	維持管理の人員不足
問6-2	維持管理者の高齢化
問7	維持管理の新たな担い手の有無
問8	担い手確保のための取り組みの有無
■草原の利用・活用について	
問9	草原の利用活用の用途
問10	活用主体について
問11	保護区などの指定状況
問12	草原があることによる経済的なメリットの有無
問13	草原の価値を高めるための取り組みについて
■草原維持管理の際の安全管理について	
問14-1	草原維持管理の際の事故の有無
問14-2	草原維持管理の際の事故の危険性の有無
問15	事故の内容について
問16	安全管理のための取り組みについて

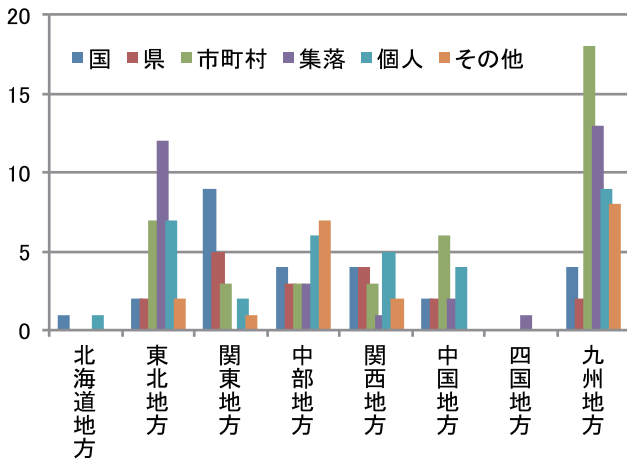
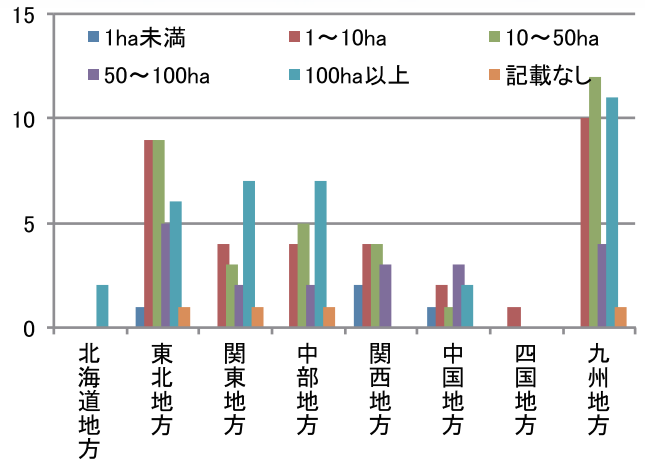


# 草原の現状

今回のアンケート結果から、草原の現状が見えてきました。全国に残る草原が、どのような状況にあるのか把握したいと思います。

## ■草原の面積は？

草原面積は1～10ha(34件)、10～50ha(34件)、100ha以上(35件)と、比較的面積の小さな草原から大きな草原までばらつきがありました。地域別にみると、東北や関西地方では50ha以下の比較的面積の小さい草原の割合が高い傾向がありました。

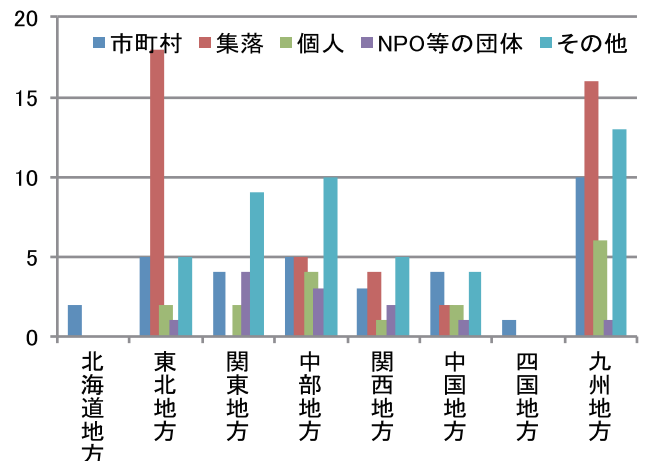


## ■草原の所有者は？

草原の所有者は市町村(40件)、個人(34件)、集落(32件)の順で多く、特に中国、九州地方では市町村有地の草原が多い結果となりました。また、東北地方では集落で管理されている草原が多い傾向がありました。「その他」の多くは牧野組合や財産区との回答であり、それらを集落での管理とみなすと、「集落」で管理されている草原が多いという結果になりました。

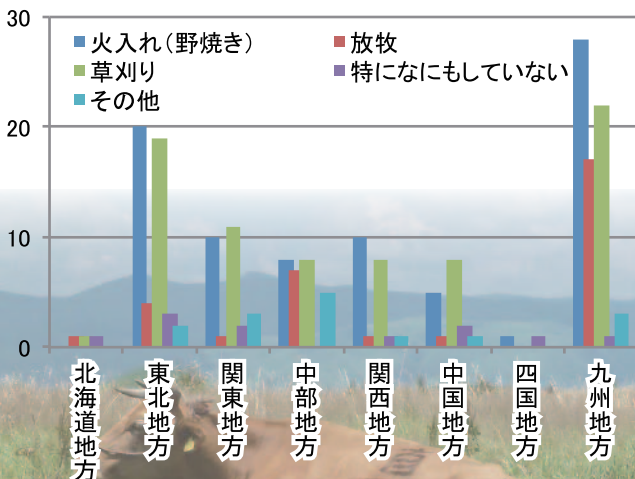
## ■草原の管理者は？

草原の管理者は「集落」が45件と多く、特に東北地方では約6割の草原が集落によって管理されていました。「その他」の回答も多く、その内訳としては国や県という回答が多くあり、市町村をはじめ国や県といった行政機関によっても多くの草原が維持されている実態が明らかとなりました。また、関東地方では他の地域に比べ、NPO等の団体が管理する草原が多いことが分かりました。



## ■草原の管理方法は？

草原の管理方法では火入れ(82件)、草刈り(77件)が多く、半数以上の草原で火入れおよび草刈りによって草原が管理されていることが分かりました。放牧は、長野県や静岡県をはじめとする中部地方や、熊本県や大分県を始めとする九州地方で多く、それ以外の地域ではあまり見られないことが分かりました。

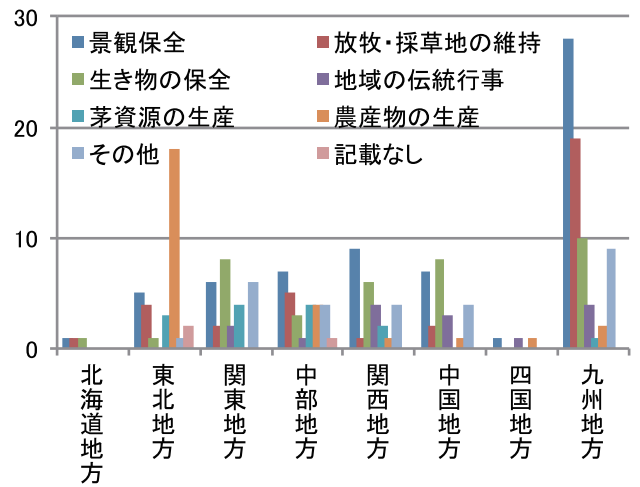
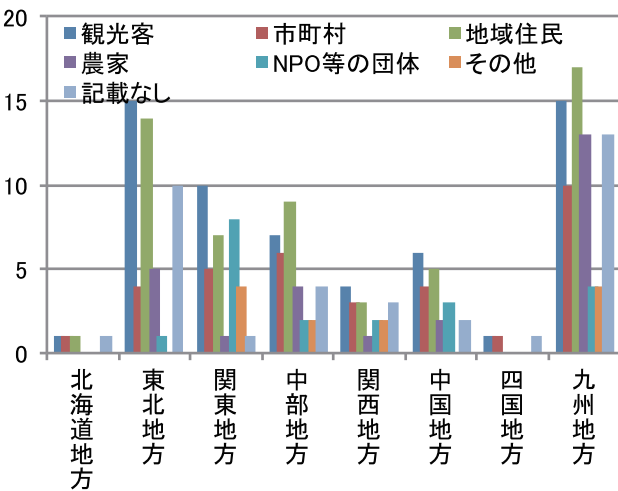


# 草原を守る人たちと課題

草原は何のために維持され、誰が守っているのでしょうか。  
その答えから、草原を守るためになすべき事が見えてきます。

## ■ 草原を維持管理する目的はなんですか？

最も多い目的は景観保全(64件)でした。地方によって目的には差があり、東北地方では観光ワラビ園をはじめとした農産物の生産、関東地方では生きものの保全を目的として維持している草原が最も多くなりました。また、九州地方では、他の地域に比べて放牧・採草地の維持のために草原を維持しているとの回答が多く、地域の産業との結びつきが示唆されました。

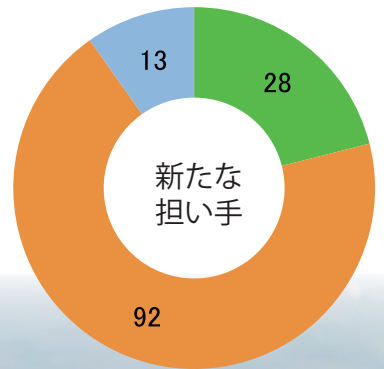
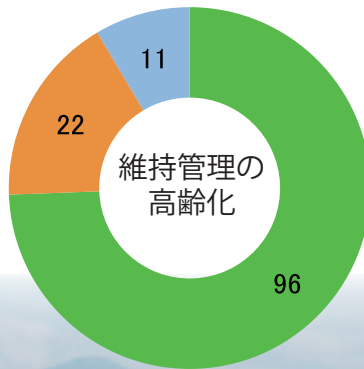
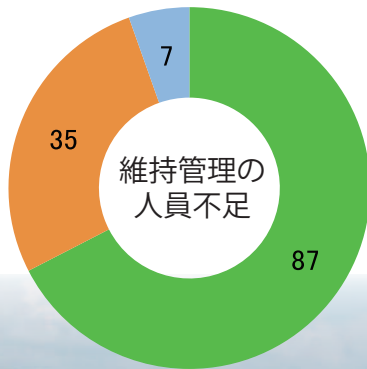
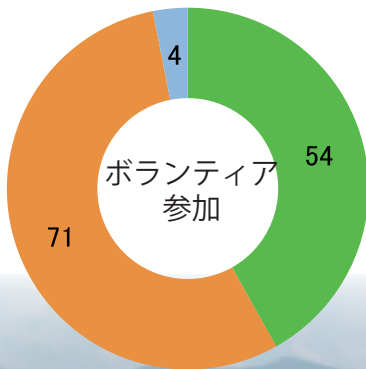


## ■ 誰が活用していますか？

草原を活用しているのは観光客(59件)、地域住民(56件)との回答が多数を占めました。九州地方では他の地域よりも農家が活用している草原が多く、維持管理の目的ともつながりがありそうです。また、関東地方ではNPO等の団体が活用している草原が比較的多いのにに対して他の地方ではそれほど多くなく、草原の積極的な利用は全国的に進んでいないのかもしれませんが。

## ■ 草原の維持管理に担い手はいるの？

草原の維持管理の担い手として、ボランティアが管理に参加している草原は半数以下で、多くの草原がローカルなコミュニティで管理されている実態が分かりました。また、7割程度の自治体が管理に必要な人員が不足していると認識しており、維持管理を行う人の高齢化に関してはさらに進んでいるようです。このような現状がありながらも、新たな担い手がある草原は28箇所にとどまり、草原の維持管理を行う人材が全国的に減っており、今後、技術や伝統の継承が難しくなっていくと思われます。



■ はい ■ いいえ ■ 記載なし

■ ある ■ ない ■ 記載なし

■ ある ■ ない ■ 記載なし

■ いる ■ いない ■ 記載なし

# 草原の安全管理の課題

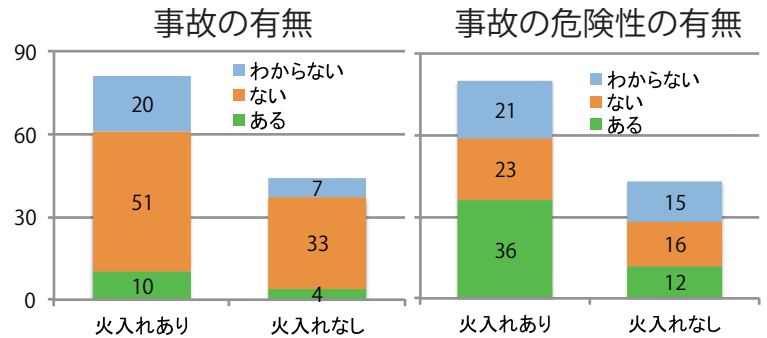
安全な草原の維持管理に向けて、どのような取り組みがあるのでしょうか。  
全国の事例を共有し、よりよい管理方法を考えていきましょう。

## ■事故が発生したことはありますか？ 事故の危険性を感じた事がありますか？

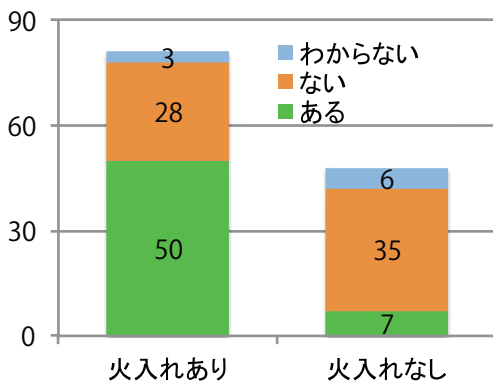
事故の発生件数は少ない結果となりましたが、事故の危険性については、その3倍以上の自治体が認識しており、草原の維持管理時に潜む危険性について一定の認識がなされている事が分かりました。

特に火入れ作業を実施している場所では「事故の危険性がある」との回答が最も多く、火入れを行っていない場所に比べて高い傾向がありました。

このことから、火入れ作業についての危険性や安全対策を共有し、より事故を減らす努力が求められることが分かりました。



## ■安全対策として行っていることはありますか？



安全対策を行っている草原(57件)と行っていない草原(63件)は、同じくらいの数でしたが、火入れの「あり」・「なし」で比較すると、火入れを行っている場所の多くでは安全対策が実施されていることが分かりました。しかしながら、いまだに約35%の場所では、安全のための取り組みが行われていないことも明らかとなりました。

安全対策としては、地元の消防団との連携や消防車の配置を行っているとの回答が多くありました。

これらの情報を共有し、より安全な火入れを目指すことが求められます。

### 安全対策の具体例（抜粋）

○注意喚起	市のHPでの広報、周辺住民への周知チラシの配布、交通規制
○事前準備	許可申請書の提出の義務づけ、防火帯（幅10m）の設置、放水車や消防車の配置、ジェットシューターの貸し出し
○当日の運営	協議会や実行委員会を結成し、火入れ当日は現地に本部を置き指揮を実施、消防団の協力を仰ぐ、風の強い日は中止する
○人員の安全確保	傷害保険への加入、火入れ前の注意事項の周知徹底、役割分担や作業ルールの明確化、AEDの準備
○マニュアル化の取り組み	ヒヤリ・ハット集の作成、野焼きマニュアルの作成、各地区の火入れマップを作成し関係者で共有

## ■草原を守るために、アンケートから分かってきたこと。

草原は地域の景観や生物、文化を守る上で不可欠なものです。火入れは草原を守る上でとても大切なしかも効果的な作業ですが人命にも関わる事故を起こす危険性もあります。各地の安全対策から、事故を起こさないために重要なことがみえてきました。これらを踏まえ「人命優先」で火入れを行い、草原を守っていくことが求められます。

1. リスクが高い場合には、勇気をもって火入れを止めるシステム
2. 当日の作業に関わる全員への、「安全が第一である」という意識統一
3. 指揮系統の明確化
4. 参加者全員の動きを指揮者が把握し、安全を確保する仕組み

編集・発行：全国草原再生ネットワーク 2015年1月

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1  
NPO 法人緑と水の連絡会議内